

放送大学 北海道同窓会会報

第 15 号

発行 放送大学北海道同窓会
<http://www.hhdoso.sakura.ne.jp/>
 編集 広報担当
 発行日 2010 年 1 月 1 日(金)
 発行責任者 中根恵美子

会員数 172 名(2009 年 12 月 20 日現在)

同窓会を今年も宜しく！！

会 長 中根 恵美子

昨年(平成 21 年)の第 5 回全道学習研究発表会も盛会の内に終わり、「平成 21 年度前期卒業・修了を祝う会」も出席者の皆さんに楽しんでいただきました。又、一言集を通して皆さんのご苦勞お気持ちなどを分ち合えたことはお世話役として感慨深いものがありました。「9 月のラテン音楽の夕べ」では学友会小林会長にも御尽力を頂いたのですが、入場者が少なく(ラテン音楽の認知度が意外に低かった事。学友会の文化祭と重なった事等)運営は赤字になりましたが、来場者の評判も良く楽しいひと時を提供できたと考えています。お世話役が精一杯働いた事に免じて赤字の件はひらにご容赦下さい。

昨年 4 月同窓会長に就任してから私なりのスローガンを掲げて(在校生や学友会・サークルの方々と幅広く交流し又協力する事。又、会員の学業を陰からサポートしつつ、母校の発展に寄与したい事)、共鳴、共振、共感をモットーに活動してまいりました。故牧野金太郎会長が創り上げ守ってきた会の理念や遺志を継承していきたいといつも念頭に置き活動しておりますが、少しでも会員や在校生・母校のためお役に立てたかな?と気になっております。皆さんにもご協力頂いての会運営ですので本年もよろしくお願い申し上げます。どなたか会運営を助けて下さーい！！

本年は第 6 回全道学習研究発表会(6 月 5 日第一土曜日開催)を予定し、お世話役は準備に奔走しております。今年のテーマは「生物の多様性と地球環境を守る為の方策を探る」にしたいと考えております。基調講演には「ヒグマが育てる森」などの著者でその生涯の大半をクマの研究と世界的なクマの保護ネットワーク作りにささげている、前田菜緒子さんにお願いしました。「中根ちゃんの頼みなら聞かなくてはね」と二つ返事で引き受けてくださいました。森からの豊かな栄養成分が川を通して海に流れ込み、川で生まれた鮭が大きくなって川を遡る。それをクマが食べ小動物や鳥が食べ、食べ残しを微生物が分解して山の樹や草の肥料とし、樹は木の実を鳥や小動物に与え、落葉樹からのどんぐりや豊かな土壌で育まれた草はクマ達の餌となり、木の葉は落ちて川に流れる。ダイナミックな自然の循環や生物の多様性と森林伐採などの自然破壊の現状など、どうしたら自然を守り回復できるのかを彼女に講演してもらいましょう。乞うご期待！！又、学習研究発表はタイトル:「緑地福祉」の必要性和その展開に関する研究」を及川修司さんに引き受けて頂きました。この発表会は私達放送大学を卒業した者達の学会です。同窓会の会員の方は勿論それ以外の方も、苦勞してまとめられた論文をこの機会にこの場で発表して下さい。参加募集中です。

昨年図らずも赤字になってしまった「ラテン音楽の夕べ」やそれに代わる物として何か楽しい催しをしたいと考えています。同窓会会員の方が参加してくださらなければ意味がありません。茶話会でも何でも皆さんと交流できる場をお世話役一同が粉骨砕身努力して提供させて頂きたいと思っています。又、学業を陰からサポートする事の一環として、病気や障害又は高齢となり行動が何かと不自由になったと感じる会員の皆様！！お手伝いします。中根か幹事にご連絡下さい。連絡先は最終頁に記載しています。

皆様のご健勝をお祈りいたしますと共に、本年も同窓会をよろしくお願い致します。

2009年度 1学期 卒業・修了を祝う会 報告

<学位授与式の様子>



<卒業・修了を祝う会の様子>



寄贈図書目録贈呈

来賓挨拶

歌の会・懇談



<卒業生からのひとこと>

標津郡中標津町 荒川美幸

二年半前、教科書を受け取った時から、私の女子大生生活が始まりました。

あこがれだった大学での勉強、看護師を続けながら両立できるのか不安もありましたが、子どもたちが進学で札幌に住んでいる今がチャンスと考え、思い切って入学させていただきました。

日勤の日は朝5時に起き、眠気と格闘しながら勉強したことも今では楽しい思い出です。

面接授業で知合った学友と一緒に、ビデオ学習したり、学食を食べたり、待ち合わせて大学構内を散歩したりした事も楽しかった思い出です。

学生証を使い美術館などで割引がきいたときには、思わず笑顔になり、女子大生気分を満喫させていただきました。

面接授業や単位認定試験で中標津から札幌まで何回も往復しましたが、勉強が進まずに汽車の中でもまだ教科書を開いている状況で、高校生の頃から全く進歩していない自分自身に驚きました。次の試験では十分にプランをたて、ゆとりを持って試験に挑むぞ・・・と毎回のよう反省するのですが、結果はいつも同じで子どもの事は叱れないと悟りました。また、いつも「勉強しなさい」と言う側だった私も、試験の時には子どもに問題を出してもらったり、「教科書持ち込み教科の試験は意外と難しい」とアドバイスをもらったりと、随分と助けてもらいました。

教科を選択するにあたっては、試験日等でいつも頭を悩ませましたが、実際に勉強を始めてみると目から鱗の教科も多く、勉強する事の楽しさを教えて頂きました。試験直前の究極の緊張感も、終了後の開放感も、大人になってからは、なかなか体験できない事でした。

去年の春、思いがけず癌が見つかり手術したときも、病室にDVDと教科書を持ち込み、勉強を続けました。

病気休暇中は一時落ち込み、勉強も手に付かない時もありましたが、もしかしたら限られた命かも知れないと考えたとき、あらためて「大学を卒業したい」との思いを強く感じました。手術後は体力の低下も実感し、仕事を続けながらでは勉強も思うように進まず、1学期の試験を受けずに、2学期の再試験にまわす等もしました。面接授業で、長時間同じ姿勢でいる事も、手術後はなかなか大変でしたが、久しぶりに学友と会い、並んで授業を受ける事は、新しい知識を吸収させてくれるだけではなく、私にもパワーも与えてくれました。手術後もウツにならずに過ごせたのは、放送大学の勉強と看護師の仕事で、余計な事を考えずにすんだおかげだとおもっています。

予定より半年遅れの卒業にはなりましたが、職場の理解と家族の協力があつたからこそここまでやってこられたものと考え、ささえて下さった周りの方たちには、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の卒業には達成感とともに一抹の寂しさも感じています。

今後は体力の回復に努め、自信がついたら、夫を学友に誘い再入学をしたいと考えています。母として妻として、看護師として、また癌のサバイバーとして、再び女子大生に戻り輝きたい。そして出来れば大学院にも・・・と私の夢は続きます。

生かされていることに感謝しつつ、今生きている事を楽しみながら、一日一日を大切に・・・

『ラテン音楽の夕べ』を開催

去る9月15日(土)北海道大学構内「遠友学舎」において、同窓会主催によるライブ『ラテン音楽の夕べ』を開催いたしました。

当日は初めての試みにもかかわらず、一般の方も含めいろいろな世代の方々約40名のお客様にお越しいただきました。当日は学友会主催の文化祭も行われており、お忙しい中お越しいただいた方々には厚くお礼申し上げます。



「ラテン音楽っていったい何だ?」と心配されながらお越しくださった方も少なくなかったと思います。当日演奏された楽曲には、皆様にもおなじみの「コーヒールンバ」や「アマポーラ」(当日はオリジナルのスペイン語での歌)などもあり、3人の巧みなおしゃべりにより徐々に会場の雰囲気も和み、盛況のうちにあっという間の1時間半が過ぎていきました。今回演奏をしてくださった、I・MA・T Oの内、ベース担当の伊藤寛康さんの作った楽曲が放送大学の教材内で使われているとのこと。どの教科で使われているのか、興味がありますね。

また、会場ではアンケートを取らせていただきましたので、回答の結果は後に掲載いたしました。皆様からは暖かい言葉の上、今後の継続のご希望もいただいておりますことに感謝しております。

(担当 小野千秋)

『ラテン音楽の夕べ』のアンケート結果

アンケート回答数 20人

① このイベントは何によってお知りになりましたか?

友人から	75%
会報	10%
大学の掲示板	10%
ちらし	5%

② 企画はいかがでしたか?

今後もライブを続けて欲しい	80%
その他	10%
無回答	10%

③ ライブの内容はいかがでしたか？（複数回答有り）

楽しかった	100%
また聴きたい	35%
値段の割には良かった	20%
高すぎる	5%
その他（ギターが最高に良かった）	5%

④ 学生もしくは同窓会員、一般の割合

学生もしくは同窓会会員	21 名	44.7%
一般	26 名	55.3%
参加者数	47 名	

⑤ ご意見・ご希望

- ・ 全く慣れ親しんでいないジャンルの音楽でしたが、これからはもっと聴いていきたいと思いました。歌っている人柄が良かったせいだと思います。
- ・ 素晴らしかったです。懐かしい曲も多く、もっと音響の良いところで、又聴きたいです。
- ・ 感動しました。大人な、すてきな方達ですね。又よんでください。
- ・ 最高でした。
- ・ とてもステキでした！コーヒールンバをはじめなつかしい曲ばかりで。
- ・ 楽しい時間を有難うございました。
- ・ 楽しかった！

ラテン音楽のタベ 収支決算書 2009 年 9 月 19 日

○収入の部

単位:円

科目	予算	決算	増減	摘要
入場料	124,000	87,200	-36,800	
その他	10,000	0	-10,000	
同窓会負担	10,000	39,700	29,700	※予算超過
合 計	144,000	126,900	-17,100	

○支出の部

科目	予算	決算	増減	摘要
出演料	105,000	105,000	0	I・MA-TO
会場費	21,660	21,660	0	遠友学舎
通信費	3,300	240	-3,060	切手代
広告宣伝費	10,000	0	-10,000	
著作権料	0	0	0	
合 計	139,960	126,900	-13,060	
収益金	4,040	0	-4,040	

— 学生サークルと同窓会の交流 —

<道史学習サークル>

見学会「当別町」に参加して

人間の探求 専攻 成田 稔

私達道史学習サークルは、毎月 1 回テキストを読んで学習していますが、春（札幌市内）秋（近郊）と年 2 回現地学習を行っています。



今年の秋は石狩当別町を訪ねることを計画しました。秋も深まる 10 月 14 日（火）、少々寒かったですが、ますますの天気恵まれました。参加者は 19 名。当別町を選んだ理由は、この地が明治初めに仙台伊達藩支藩の岩出山藩主従が独自に北海道開拓を志し、幾多の試練・困難と闘いながら開拓に成功した地として記憶されているからなのです。

当日は、当別町到着後、当別伊達記念会館、伊達邸別館、当別神社を見学し、数々の展示資料から開拓当時の苦労をしのびました。またその後、「伊達邦直主従北海道移住の地」碑（石狩市に位置している。）にも案内していただきました。そのあと、篠津泥炭地展示資料館を見学し担当の方から詳しい説明をうけました。泥炭地は現在ではもう実際に見ることはむずかしくなっていますが、北海道開拓当時は最大の難関地であった訳で泥炭地の実際とこれとの闘いの歴史などについて教えられることがおかったです。



さらに、スウェーデン交流センター、小説「石狩川」作者の本庄睦男生誕の碑、「石狩川」文学碑、ロイズ太美工場を見学し、楽しい見学会は無事終了しました。

今回の見学会にあたり特筆すべきことは、当別町教育委員会社会教育課の皆様、当別町歴史ボランティアの皆様準備段階から当日の計画立案、手配に至るまで多大のご配慮をいただいたことです。当別町のみなさまの心のこもった配慮と当日のご案内など、参加者皆が深く感謝したことでした。ありがとうございました。

放送大学大学院 中川 俊二

私は、放送大学への通学には、社会参加を目的として、月二回西区社会福祉協議会の身障者介護車を利用しています。介護車の都合によるが、終日利用できることが分かり、以前より考えていた“歴史的建造物”を巡ることを思い立ち、介護車に2・3名の余裕があり、“歴史的建造物を巡る集い”とするゼミナールとし、学内で編成した。

<第1回 7月16日 小樽市>

先ず、“歴史的建造物”と言えば小樽と決め、小樽住吉神社、富岡教会、小樽市能楽堂、旧魁陽亭（現海陽亭）を目指すこととした。

小樽市は、歴史的建造物の保存には力をいれており、「歴史的建造物」の冊子も作成しており、非常に参考になる。

第一番目として、小樽総鎮守住吉神社に歩を進めた。

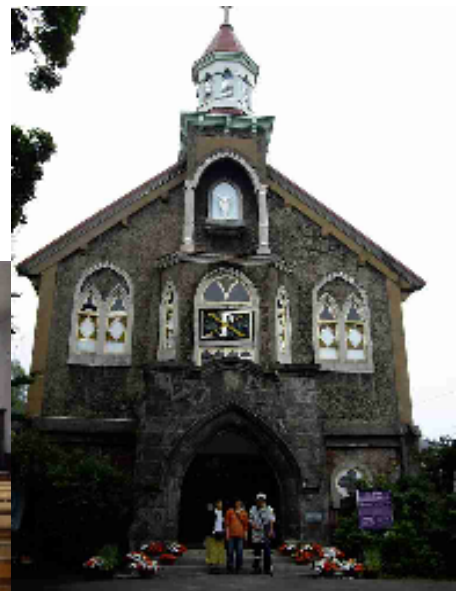
① 小樽総鎮守住吉神社（小樽市住ノ江2-5-1）

小高い神社から見下ろすと参道は、五号線を抜け小樽市立病院、南小樽駅から小樽湾へと一直線に連なるものとなる。

参道中ほどには、素晴らしい社務所と舞台があり、さらに上ると神社と神輿蔵がある。

この神輿は、道内最大級の神輿「百貫神輿」としても有名である。

次が、富岡教会です。



② カトリック富岡教会（小樽市）

富岡教会は、既に2度来ているが季節が秋と冬のせいもあり、外観だけであったが、今回は、内覧ができ二階の教会の素晴らしさとガラス細工が素敵だった。言うまでも無く、教会のその外観の素晴らしさは、言うまでもない。

続いて、小樽市能楽堂になります。

③ 小樽市能楽堂（小樽市花園 5－3－2）

これは、昭和 29 年に岡崎家より寄贈された同家能舞台である。佐渡出身の荒物雑貨商、元小樽市議会議員・岡崎謙氏は大正 15 年入船町の私邸内に能舞台を建設した。能舞台の仕様は江戸幕府によって定められ、鏡板の松の絵は狩野派の筆によることが基本とされていたが、この岡崎家の能舞台はこれらの原則に従った格式高い能舞台である。



最後になるが、旧魁陽亭（現海陽亭）にて、昼食と見学である。

④ 旧魁陽亭（小樽市住吉町）

明治初期に開業し、北のウオール街“小樽”の北海道唯一の料亭として、名声を博す。伊藤博文、岩崎小弥太らの政財界の著名人も多数来訪された様子が、旧魁陽亭の見学からも伺えて、とても、おいしく・たのしいところでした。なお、ボランティアの方にも、次回以降参加していただくことにしました。

<第2回 9月16日 江別市>

二度目は、江別市にて煉瓦（レンガ）と旧牧場を見、昼は市役所前の“えぞ八”（従兄弟が経営している）にて“そば”を食べよう。

先ず、旧町村農場へと向かう。

① 旧町村農場（江別市いずみ野 25）

篠津地区に移転した農場跡地の住宅、牛舎、製酪室を保存・改修し、酪農に関する資料や農機具などを展示。平成 19 年 11 月、経済産業省から「地域活性化に役立つ近代化産業遺産」に指定されました。

続いて、石造り石庫群など

② 江別駅前石造り倉庫群（江別市 2－1 ほか）

旧岡田倉庫、火薬庫（江別市有形文化財）

③ ガラス工芸館

④ セラミックアートセンター

雨に降られたため、あちこちの見学をセラミックアートセンターの見学に切り替えて、センターにて煉瓦（レンガ）他の展示を観ることとした。



＜第3回 11月17日 石狩市＞

石狩は、サケの遡上する石狩川とともに、また、道都札幌建設の物資運搬、石狩川奥地開発の玄関口として栄えました。

今回のツアーは、その玄関口となった本町地区の弁天歴史通りを主軸に巡ることとした。

- ① 番屋の湯、番屋の宿
- ② いしかり砂丘の風資料館
- ③ 旧長野商店（石狩市指定文化財第4号）

旧長野商店は、呉服雑貨商を営んでいた越後国北蒲原郡の長野徳太郎により、明治27年に建てられた。

- ④ 石狩弁天社（石狩市指定文化財第1号）
- ⑤ 長溪山 曹源寺ほか多数寺社があり。
- ⑥ あいはら、2階・マウニの丘

“あいはら”にて昼食においしい石狩鍋を食べた。

- ⑦ 石狩灯台

石狩灯台を巡る遊歩道を歩きながら、女性は山ぐみの実を採っていたが、女房は家に戻り、早速ジャムを作ったので、美味しくパンにつけて食べました。



<英語サークルに参加して>

同窓会 副会長 安藤典子

皆さんにとってサークルとは何でしょう？

私 安藤は学生サークルとの交流事業の一環として同窓会会員の皆様に英語サークル「ダンディライオン」をご紹介したいと、土曜日クラスで体験学習をさせていただきました。

このサークルは「長く続けるため楽しく学ぼう」と言う事から、「**楽しく学べ～let's learn English with pleasure!**」をモットーに活動しているとの事。又、設立時に何かサークルの名前を付けたいとの提案があり、沢山の候補の中から「ダンディライオン」に決めたそうです。

私が参加させて頂いた土曜クラスの先生は、Native 教師・北大大学院生でアメリカから留学されているとてもフレンドリーな方でした。体験学習は全て英語で受け答えする形式です。私にとって初めての経験ですのでドキドキしながらの授業でした。どうしても日本語を使ってしまい「**English! English!**」と言われてしまいましたが、皆さんとても優しい笑顔で助けて下さり、**let's learn English with pleasure!**を実践できました。**Excellent!!**な時間を過ごすことができました事、本当に感謝しております。

今回の体験でサークルとは何かを考えたときに「仲間の和・輪」を大切にし、共に助け合って同じ目標に進むことなのだと感じました。仲間がいて、困難な事も乗り越えて行ける。一緒に楽しめる仲間万歳ですね。

このサークルは 2000 年 8 月スタートしました。とてもアットホームで素敵な会なので、一度覗いて体験してみたいと思います。きっと気に入りますよ。

文末になりましたが、ダンディライオンの皆様、会誌を頂きましてありがとうございます。同窓会の方々と一緒に辞書を片手に読ませて頂きたいと思います。



「英語サークル」へのお誘い



・初級・中級クラス 火曜日 13:30～15:00

・土曜クラス 土曜日 15:00～16:30

連絡先：木戸 090-3778-1715

卒業生・修了生から寄贈図書のお知らせ <2009 年度 1 学期>

北海道同窓会では、2009 年度 1 学期の卒業生・修了生から放送大学北海道学習センターへ寄贈図書をする橋渡しをさせていただきました。今回は、在学生の面接授業で紹介された図書と卒業生・修了生からご希望がありましたので、それらの本を寄贈図書いたしました。

とても興味ある本ですので、ここに掲載してお知らせいたします。是非、一度お手に取ってご覧になり、読んでいただきたいと思います。皆さんの学習・研究、そして、身近な問題に役立てて頂けると幸いです。また、読んだ感想などもお寄せいただきたいと思います。今後も、購入希望の図書がありましたら、同窓会事務局まで申し出ください。

寄贈図書名

- ① 『地理空間情報の基本と活用』 (橋本雄一編・古今書院)
- ② 『コードの世界』 (澁谷智子 著・医学書院)
- ③ 『殺劫』(シャーチェ)(ツェリン・オーセル著・藤野彰/劉燕子訳・集広舎)

第6回全道生涯学習研究発表会 開催要項

1 記念講演 仮題「ヒグマが育てる森」 前田菜穂子(まえだなほこ)氏

のぼりべつクマ牧場ヒグマ博物館学芸員・学術課長、室蘭工業大学非常勤講師、
北海道大学非常勤講師、ヒグマの会事務局、「クマさん教室」開校。

前田菜穂子(まえだなほこ)氏自身ヒグマを知らなかった時に感じていた思い込みによる恐怖から、その変化の過程を皆様と分かち合うことができれば、クマと人との共存の道を一歩進めることに役立つのではないかと、クマへのお返しではないかなど、クマとの共存の実現について講演をしていただきます。

「ヒグマが育てる森」著書(岩波書店刊)の紹介

本書は、その中心的メンバーとして、文字通りヒグマとともに人生を生きた著者の回想記であり、またタイトルにもあるように、ヒグマの存在が生態系にとって不可欠であるという、共生へのメッセージでもある一冊。

主な他著書に『ひぐまの冬ごもり』(新日本出版社)『ヒグマと人間』(苫小牧民報社)他。

2 研究発表

及川 修司 氏

平成21年3月 放送大学大学院 文化科学研究科 政策経営プログラム修了
北海道余市養護学校寄宿舎指導員 社会福祉士

テーマ:「緑地福祉」の必要性とその展開に関する研究

発表の概要

「緑地福祉」とは、簡単に言えば、様々な緑に関わる活動全般(例:園芸療法や森林浴等)を通して、誰もが楽しく幸福を獲得していくための考え方であり、実践であります。

実際の修士論文では、北海道のある町の住民及び、関係機関(医療・福祉・教育)を対象に、アンケート調査を実施し、そこで得た実態や意見、並びに先進地域の取り組み等を踏まえ、この地域における「緑地福祉」の必要性とその展開の仕方について、地域の行政に提言させて頂きました。当日はアンケート調査結果と提言内容を中心に発表させて頂きます。

3 開催要領

日時: 2010年6月5日(土) 受付:12:00 開始・終了 12:30-16:30

会場: 放送大学北海道学習センター 6F 中講義室 北区北17条西8丁目(北大構内)

参加者資格: だれでも参加できます。

参加・資料代: 学生・道民カレッジ生・一般 700円をお振込み、または当日頂戴します。

(但し同窓会々員前払いの方のみ500円)

郵便口座名 放送大学北海道同窓会 口座番号 02740-0-37725

4 問い合わせ先 & 参加申し込み

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 北海道大学構内

放送大学北海道学習センター気付 放送大学北海道同窓会

大橋 Tel 090-5953-7695 (Fax) 011-682-1362 E-mail: chiyoko.ohashi@gmail.com

新入会員のご紹介！！（敬称略・順不同）

渋谷 正之（院）	柴田 眞智子（生）	橋本 勲（社）
山口 あや子（生）	村上 良一（社）	小澤 輝真（産）
舩田 樹理（生）	本間 鄙子（生）	継枝 吾郎（社）
上村 裕子（発）	荒川 美幸（生）	

〒・住所・電話番号などの変更のときは、必ず、ご連絡をお願いいたします。

2009年1学期 卒業生・修了生

会費納入と新入会員募集のお知らせ

2009年度の継続会員の方は、今年度の年会費 1,000 円を下記口座へ納入くださるようご協力をお願いします。

また、同窓生の中で同窓会に入会していない方がおられましたら、入会をおすすめくださるようお願いいたします。

入会を希望される方は、郵便振替用紙に「氏名、住所、電話番号、卒業年月、専攻」をご記入の上、入会金 1,000 円、年会費（初年度）1,000 円を下記口座へご送金ください。（次年度以降は年会費のみとなります。）

郵便口座名 放送大学北海道同窓会
口座番号 02740-0-37725

放送大学を宣伝してください！

皆さんの『口コミ』で、放送大学に入学して良かったと思うことを、大勢の方々に知らせてください。入学等に関する問合せ先

放送大学北海道学習センター
011-736-6318

なかむら歯科医院

院長 中村秀司
〒063-0012
札幌市西区福井3丁目13-25
Tel. 011-667-4184

ともより歯科診療所

院長 友寄英基
札幌市中央区南1条西7丁目
札幌スカイビル2階
Tel. 011-221-2819

広告原稿募集！

同窓会会報では在学生のサークル活動などの人員募集広告を交流事業の一環で掲載しています。次号は4月25日が〆切ですのでこの囲み程の原稿をお持ち下さい。尚、紙面に限りがありますので、先着順とさせていただきます。

お申込の原稿は、学習センター事務室の同窓会ポストに投函して頂くか、

e-mail tomi-2.7.2@jcom.home.ne.jp 中根宛
Tel 090-2058-4453 をお願いします。

語学研究会ロシア語部門のお誘い

放送大学のサークル語学研究会では、
ロシア語の語学を学びながら、生活文化を理解・
研究をしたい仲間を募集しております。

5F多目的室へ、気楽に体験学習を！！

- ・講師：タチアーナ講師・小坂講師
- ・毎週 金曜日14:30-16:30

同窓会の皆様、ロシア語の学習をしませんか？

大橋 090-5953-7695< chiyoko.ohashi@gmail.com >

編集後記

新年を迎え、皆様には、お心を新たにされていることと思います。

昨年、故牧野金太郎元会長のご仏前に活動を報告させて頂きました。奥様から「故人が目を細めて喜んでいるでしょう。きっと今後の活動も見守っていますよ」と励ましのお手紙を頂きました。

同窓会役員は、会員の皆様や在学生との交流をより深め、会員の学業などを陰ながら支援し、母校の発展に寄与していきたいと考えています。

“交流の輪”を広げながら、同窓会活動の向上に励み、これらの活動を報告するため担当者一同で編集させて頂きました。ご寄稿・ご協力などを頂いた方々に心からお礼申し上げます。

会報第15号編集長 大橋 ちよ子